

作成日 2008年03月03日
改定日 2011年07月25日

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 サーフランド F
会社名 ユーピーエルジャパン株式会社
住所 〒107-6030 東京都港区赤坂一丁目 12 番 32 号
担当部門 開発登録部
電話番号 03-6230-1071 FAX 番号 03-6230-1073
メールアドレス upl_japan@uniphos.com
緊急連絡先 ユーピーエルジャパン株式会社 開発登録部
電話番号 03-6230-1071
整理番号 0302

2. 危険有害性の要約

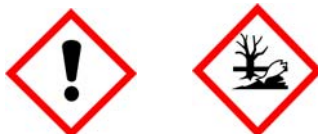
GHS分類

| | | |
|-----------|-----------|-------|
| 物理化学的危険性 | 引火性液体 | 区分外 |
| 健康に対する有害性 | 急性毒性（経口） | 区分外 |
| | 急性毒性（経皮） | 区分外 |
| | 皮膚腐食性・刺激性 | 区分3 |
| | 眼損傷／眼刺激性 | 区分2 B |
| | 皮膚感作性 | 区分1 |
| 環境に対する有害性 | 水生環境急性有害性 | 区分1 |

*記載がないものは、分類対象外または分類できない

GHS ラベル要素：

絵表示



注意喚起語 ：警告

危険有害性情報：軽度の皮膚刺激

眼刺激

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

水生生物に非常に強い毒性

注意書き：

- [予防策] 取扱い後はよく手を洗うこと。
保護手袋を着用すること。
粉じん／ヒューム／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
環境への放出を避けること
- [対応] 皮膚についた場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激または発疹が生じた場合は医師の診断／手当てを受けること。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当てを受けること。
汚染された衣服を再使用する場合には洗濯すること。
- [廃棄] 内容物・容器は自治体の規則に従って廃棄すること。

2. 組成、成分情報

3.

単一製品・混合物の区別： 混合物

成分情報：

| 化学名または一般名 | CAS 番号 | 官報公示整理番号 | 濃度 (%) |
|--|------------|----------|--------|
| オリザリン (3,5-ジニトロ-N4,N4-ジプロピル スルファニルアミド) | 19044-88-3 | — | 85.8 |
| クレー | 1332-58-7 | — | 6.7 |
| その他 | — | — | 7.5 |

分子式： オリザリン $C_{12}H_{18}N_4O_6S$ 、

4. 応急措置

- 吸入した場合： 新鮮な空気のある場所に移し、保温安静に務める。呼吸が停止している場合は、救急連絡した後に人工呼吸または酸素吸入を行い、その後、速やかに医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合： 汚染した衣類などを脱がせる。直ちに石鹼を用い大量の水で少なくとも 15 分間洗い流す。皮膚刺激が続く場合には、医師の診断を受ける。
- 目に入った場合： まぶたを開いて、水を用いゆっくりと丁寧に 15～20 分間洗浄する。コンタクトレンズを使用している場合には、5 分後に取り外してさらに洗浄を続ける。速やかに医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合： 直ちに口をすすぎ、医師の診断を受ける。意識がない場合には、口から何も与えてはならない。医師の指示がない限り吐き出させてはならない。

医師への注意事項： 対症療法を行うこと(オリザリンには、解毒剤は知られていない)。

5. 火災時の措置

消火剤： 周辺状況に応じて、適切な消火剤（粉末消火剤、泡消火剤、散水、二酸化炭素など）を用いる。

特有の消火方法： 密封された容器が火災に曝される恐れがある場合には、散水して冷却する。危険でなければ、火災区域から本製品を移動する。

特定の危険有害性： 製品中に N、S を含有しているため、火災時に刺激性、あるいは有毒なヒュームを放出する。大量の水が蒸発するような状況下では、オリザリンが乾燥して可燃性を示すことがある（自己発火点： $>93^{\circ}\text{C}$ ）。また、特殊な場合にはオリザリンのダストの爆発性が問題となることも考えられる（ダストについての最低着火温度： 379°C ）。

消火を行う者の保護： 適切な保護具または耐火服を着用する。場合により、自給式呼吸を着用すること。

有害な燃焼生成物： 窒素酸化物

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項： 関係者以外の立入りを禁止する。作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚及び衣類への接触を避ける。風下で回収作業をしてはならない。

環境に対する注意事項： 土壌に浸透させてはならず、下水、河川、排水などに流してはならない。

除去方法： 漏出したものをすくい取り、又は掃き集めて紙袋又はドラムなどに回収する。下水溝、表流水、地下水に流してはいけない。

7. 取扱い及び保管

取扱い： 子供を近寄らせないこと。この製品を取り扱う際には、適切な保護具を着用し飲食及び喫煙をしないこと。取扱った後には、肌の露出部を良く水洗すること。稀に可能性があるダストの発生に注意すること。

保管： 本製品の元の容器に入れたまま保管し、密閉状態を確認する。乾燥した換気の良い冷暗所に保管すること。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度： 設定されていない。

許容濃度： <オリザリン原体>

| | | |
|-------------|-------------------|--------------------------------|
| | 日本産業衛生学会（2003） | : 未設定 |
| | ACGIH（2003） | : 未設定 |
| | OSHA（2003） | : 未設定 |
| | ＜クレ－＞ | |
| | 日本産業衛生学会（2003） | : 未設定 |
| | ACGIH（2003） | : 未設定 |
| | OSHA（2003） | : TWA 呼吸性粉塵 2mg/m ³ |
| 設備対策： | 局所排気及び洗眼設備を備えること。 | |
| 保護具 呼吸用保護具： | 粉塵マスク | |
| 目の保護： | 保護メガネ、ゴーグル | |
| 保護手袋： | 不浸透性手袋 | |
| 保護衣： | 安全帽、保護衣、安全靴 | |
| 衛生対策： | 取扱い後は、良く手を洗うこと。 | |

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|-------------------------|---|
| 形状： | 顆粒 |
| 色： | オレンジ色 |
| 臭い： | 無臭 |
| pH： | 知見なし |
| 沸点： | 知見なし |
| 融点： | 知見なし |
| 引火点： | 知見なし |
| 発火点： | 200℃ ²⁾ |
| 爆発特性 | |
| 爆発限界： | 下限；400mg/L ²⁾ |
| 比重： | 知見なし |
| 溶解性： | 水に懸濁 |
| ＜本銘柄の主成分、オリザリンの情報を記載する＞ | |
| 蒸気密度： | 1.49g/cm ³ （25℃） ¹⁾ |
| 蒸気圧： | <1.0×10 ⁻⁸ mmHG（25℃） ¹⁾ |
| オクタノール/水分配係数： | log Pow=3.72（25℃） ¹⁾ |

10. 安定性及び反応性

| | |
|---------|--|
| 安定性： | 通常取り扱い条件下では、安定である。オリザリンが浮遊粉塵となるような極めて特殊な場合には、爆発性を示すことも考えられる。 |
| 腐食性： | 知られていない。 |
| 反応性： | 重合しない |
| 混合禁忌物質： | 本製品は農薬であるから、農薬として使用する際に、製品そのものを他の物質と予め混合することは認められていない |

1 1. 有害性情報

| | |
|---------------------------|---|
| 急性毒性： | ラット経口 LD ₅₀ ： >5,000 mg/kg マウス経口 LD ₅₀ ： >5,000 mg/kg ウサギ経皮 LD ₅₀ ： >5,000 mg/kg |
| 皮膚刺激性： | 軽微な刺激性（ウサギ） |
| 眼刺激性： | 軽度～中等度の刺激性（ウサギ） |
| 皮膚感作性： | 陽性（モルモット、Buehler 法） 陰性（モルモット、Maximaization 法） |
| 発がん性： | 情報なし |
| ＜本銘柄の主成分、オリザリン原体の情報を記載する＞ | |
| 変異原性： | 陽性（枯草菌を用いた復帰変異性試験） 陰性（in vitro/動物細胞を用いた変異原性試験） |

1 2. 環境影響情報

| | |
|--------------|---|
| 生態毒性 | |
| 水産動植物に対する影響： | コイ LC ₅₀ 113 mg/L オオミジンコ EC ₅₀ 0.00572mg/L 藻類 EbC ₅₀ 0.0684 mg/L (0～72 時間) |
| その他： | ハチに対して影響はない。カイコに対し毒性は低い。 ＜本銘柄に関する情報が少ないため、オリザリン原体の情報を記載する＞ |
| 生物濃縮性： | Log Pow： 3.72 |
| 分解性： | 土壌中における半減期は、数日～数週間である。 |

1 3. 廃棄上の注意

| | |
|--------|---|
| 残余廃棄物： | 本剤は農薬であるから、農薬として関連法規制及び地方自治体の基準に従うこと。水生環境中には廃棄してはならない。 焼却処理を行う場合 1) 可燃性溶剤に溶解又は混合し、アフターバーナーおよびスクラバー付インシナレーターの中で焼却する。 2) 焼却室の温度は完全に分解させるために、800℃以上に保持する。 3) 焼却時に有毒ガス（窒素酸化物、イオウ酸化物）が発生するので、焼却排ガスの処理対策を講ずる。 |
| 汚染容器： | 空容器を廃棄する場合には内容物を完全に除去し、関連法規制及び地方自治体の基準に従って、適切に処分すること。 |

1 4. 輸送上の注意

| | |
|-------|----------------|
| 国際規制： | 国連分類の危険物には該当せず |
|-------|----------------|

国内規制： 該当せず
特別の安全対策： 食品や飼料と混載してはならない。輸送に際しては、直射日光を避け容器の破損、漏れ等がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行うこと。

1 5. 適用法令

労働安全衛生法： 非該当
化学物質管理促進法： 非該当
消防法： 第 5 類第 2 種
農薬取締法： 登録番号[第 20172 号]

1 6. その他の情報

参考文献

- 1) 自社データ
- 2) 他社 MSDS データ

記載内容は、現時点で当社が入手した資料・データ等に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、安全性を保証するものではありません。
又、注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。

中毒の緊急問い合わせ先 : 財団法人 日本中毒情報センター

| 中毒 1 1 0 番 | 一般市民専用電話 (通話料のみ相談者負担) | 医療機関専用有料電話 (一件につき 2,000 円) |
|------------------------|--------------------------|-------------------------------|
| 大 阪 (365 日、24 時間対応) | 072-727-2499 | 072-726-9923 |
| つくば (365 日、9 時~21 時対応) | 029-852-9999 | 029-851-9999 |